

【儲かる農業の実現に向けた県南地域の取組方針 数値目標に対する令和5年度の進捗状況一覧】

1. 大規模水稻経営体の育成

	指標名	R4年度 実績	R5年度 目標	R5年度 実績	R7年度 目標	評価と今後の対応	
大規模水稻 経営体数	100ha以上 ※100ha未満でも粗収益 1億円以上の経営体を含む。	8経営体	11経営体	12経営体	16経営体	○	経営面積100ha以上の経営体数、50～100haの経営体数ともに、今後も、農地の集積・集約へ向けた取組や省力化のための技術的な支援等 を続け、経営感覚に優れた大規模水稻経営体のさらなる育成を図って いく。
	50～100ha	36経営体	35経営体	37経営体	39経営体 (見直し予定)	○	
スマート農業機械導入経営体数		109経営体	115経営体	127経営体	127経営体 (見直し予定)	○	今後も、スマート農機の技術実証や現地検討会の開催により、ス mart農機の導入効果を周知するなどし、さらなる導入を推進してい く。
メガファーム 事業体の 集積面積及び 米生産費 (60kg当たり) の削減率	集積面積	69ha	80ha	104ha	100ha (見直し予定)	○	龍ヶ崎市東部地区の事業対象経営体がメガファーム（経営面積 100ha）となったが、今後も、関係機関で農地の情報を共有する等 し、R7年度の作付けに向け、更なる集積を推進する。
	米生産費	現状把握	10%減	9.1%減	20%減	△	周辺耕作者等との農地交換により集約が進んだことで営農が効率化 し、米生産費は10,548 円/60kg (R4) →9,586 円/60kg (R5) と9.1% 削減できたが、目標の10%には届かなかった。 今後も、さらに集約を進めるなどして、営農の効率化を図り、米生 産費の削減を図っていく。
特A評価の継続獲得		特A	特A	A	特A	△	県内での審査を経て、県南地域の「コシヒカリ」の代表サンプルを 選出したが、食味ランキング（日本穀物検定協会）の結果は「A」評 価であり、目標の「特A」は獲得できなかった。 引き続き、実証圃を設置し、遅植えの実施、追肥技術指導、適期収 穫指導等により、特Aの獲得を目指す。

※評価について【○：目標達成、△：未達成（目標の9割以上を達成）、×：未達成：（（目標の9割以下の達成に留まった）】

## 2. 日本一れんこん産地における持続可能な儲かる農業の展開

指標名	R4年度 実績	R5年度 目標	R5年度 実績	R7年度 目標	評価と今後の対応	
販売金額1億円以上の経営体数	3経営体	3経営体	<b>4経営体</b>	5経営体	○	今後も、収量低下の原因となっている病害虫や鳥害の対策、商談会への参加誘導、加工品開発、省力化技術（スマート農機）の導入について支援するなどし、さらなる販売金額の増加を図っていく。
黒皮症被害程度指数	17.9	13.6	17.8	11.6	×	目標は達成できなかったが、生産者への黒皮症に係る情報提供、JA部会等を対象としたセンチュウ検査及び防除対策、健全な種バスの使用等について指導した結果、被害の拡大防止につながった。 今後も、健全な種バス供給や休作、夏季の石灰窒素散布等のセンチュウ低減技術等に関する情報提供を行い、被害の防止・低減を図っていく。
スマート農機等の導入の経営体数	3経営体	9経営体	<b>11経営体</b>	9経営体 (見直し予定)	○	今後も、収量低下の原因となっている病害虫や鳥害の対策、商談会への参加誘導、加工品開発、省力化技術（スマート農機）の導入について支援するなどし、さらなる販売金額の増加を図っていく。
10aあたりの投入施肥窒素量	25.7kg	24.0kg 以下	<b>23.1kg</b>	24.0kg 以下	○	今後も、たい肥による肥料代替及び診断施肥技術の実証ほの活用や、栽培講習会やホームページにおいて適正施肥技術を指導・周知するなどし、継続した目標を達成を図っていく。

※評価について【○：目標達成、△：未達成（目標の9割以上を達成）、×：未達成：（（目標の9割以下の達成に留まった）】

### 3. 地域農業を牽引する儲かる園芸経営体の育成

指標名		R4年度 実績	R5年度 目標	R5年度 実績	R7年度 目標	評価と今後の対応		
販売金額 1億円 経営体の 育成	ねぎ	集積 面積	15.3ha	18ha	19.1ha	20ha	○	引き続き、農地マッチングによる規模拡大や栽培技術指導等を実施し、販売金額の増加に向け支援していく。 なお、両経営体とも概ね最終（R7）目標を達成したことから、R6年度からは、数値目標から削除し、みつば、こまつなの経営体に関する目標を新たに位置づけ支援していく。
	ねぎ (企業参入)	集積 面積	9.2ha	11ha	12.7ha	13ha	○	
	かんしょ	集積 面積	10ha	15ha	14.5ha	20ha	△	新たに4.5haを集積することができた。 今後は、生分解性マルチの実証補を設置し導入に向けた支援を行うなど、省力化やさらなる規模拡大等に向け支援していく。
	ガラスハウス	採花率	60%	65%	55%	73%	×	遮光やかん水について支援したものの、7、8月の高温・干ばつの影響が大きく、採花率が低下した。 今後も、高温・乾燥対策として、かん水の効果的な使用方法を検討するなどし、採花率の向上等に向け支援していく。
かんしょの生産拡大面積 (※単年度における拡大面積)		7,145a	3,300a	2,435a	— ※R5年度が 最終目標	×	かんしょトップランナー事業を活用するなどし、生産拡大を支援した。R5年度単年では目標達成できなかったが、R4、R5年度の合計で8,300a拡大を目標としており、2年合計での目標は達成できた。 今後、かんしょについては、新規生産者が多いことから、栽培技術の高位平準化による品質向上を目的に、技術指導及び習得支援を行っていく。	
スマート農業導入経営体数		56経営体	58経営体	59経営体	61経営体	○	3経営体（キュウリ・統合型環境制御装置（2経営体）、イチゴ・UV-Bランプ（1経営体））で新たにスマート農機が導入され、施設園芸農家におけるスマート農機導入は59経営体となった。 スマート農業技術導入については、儲かる経営体育成の手段として、その他の支援策と一体的に進めるものであり、今後も各種支援策と合わせて推進していくこととし、R6年度からはスマート農機導入単独での数値目標としては削除する。	
販売金額目標達成経営体数の割合		56% (10/18)	84% (16/19)	53% (10/19)	100% (19/19) ※R6年度が 最終目標	×	経営体育成指導活動対象のうち、園芸品目を栽培する19経営体に対し、目標設定と課題の整理を行い、対象者と共有し、スマート農業技術の導入を含め、経営改善・向上を支援した結果、全体の目標（84%）は達成できなかったが、10経営体（53%）が目標を達成し、17経営体（89%）が前年度（R4）の販売金額に対して、維持または向上した。 今後も各経営体の課題に対し、必要な支援を行い。販売額の向上を図り、目標の達成を目指していく。	

※評価について【○：目標達成、△：未達成（目標の9割以上を達成）、×：未達成：（（目標の9割以下の達成に留まった）】

#### 4. 常陸牛の生産拡大

指標名	R4年度 実績	R5年度 目標	R5年度 実績	R7年度 目標	評価と今後の対応	
新ブランド常陸牛出荷頭数	—	45頭	3頭	47頭	×	<p>新ブランド「常陸牛煌」はR5.9月に販売が開始され、県全体では53頭が認定されたが、認定できる食肉処理場が現在のところ1か所であること等から、県南管内の出荷頭数はその内の3頭に留まり、目標は達成できなかった。</p> <p>今後は、出荷頭数の増加に向け、高品質常陸牛生産者対策事業を活用し、脂肪の質に優れた繁殖雌牛の確保や受精卵移植技術等の活用による効率的な繁殖雌牛の増頭を支援することで「常陸牛煌」の生産基盤の強化を図っていく。</p> <p>なお、R6年度からは、数値目標を「常陸牛煌」の認定基準の一つである、茨城生まれ茨城育ちの「子牛登記頭数の拡大」に見直し、繁殖雌牛の増頭等を支援することにより、子牛頭数の増加を推進していく。</p>

#### 5. 水田の有効活用の推進

指標名	R4年度 実績	R5年度 目標	R5年度 実績	R7年度 目標	評価と今後の対応	
水田高収益作物の導入面積	1,548ha	1,576ha	1,723ha	1,632ha (見直し予定)	○	<p>今後も、水田高収益作物の導入にあたっては、地域農業再生協議会やJAと連携した生産者向け説明会や現地検討会を開催し、経営所得安定対策事業や水田畑地化事業の活用、企業参入等による高収益作物の導入等を推進していく。</p>
新規需要米の導入面積	5,864ha	5,875ha	6,029ha	5,900ha (見直し予定)	○	<p>R6年からR8年にかけての飼料用米（一般品種）の支援水準の段階的な引き下げに伴い、飼料用米の作付の減少が想定されるが、市町村及び地域農業再生協議会と連携し、認定農業者等の生産者向け説明会の開催を支援するなどし、今後も、新規需要米の作付け拡大を推進していく。</p>

※評価について【○：目標達成、△：未達成（目標の9割以上を達成）、×：未達成：（（目標の9割以下の達成に留まった）】